

特別企画：2023年冬季賞与動向調査（茨城県）

冬季賞与を増やす県内企業は20.3%、 前年を0.7ポイント上回る

～『小売』『製造』は2年連続で
冬季賞与を増やす企業が「増加」～

はじめに

賃上げを実施する企業が広がりを見せてきたなか、それを上回るスピードで物価高が進み、実質賃金は18カ月連続で低下している。2023年は、3年あまり続いたコロナ禍が収束し、企業が選ぶ漢字で「変」がトップだった※。生成AIの急速な活用拡大など時代が大きく変わる節目を迎えるなかで、2024年は賃金の動きが最大の焦点になるとみられる。

こうした状況のもと、帝国データバンクは、2023年冬季賞与の動向について調査を実施した。

調査期間は2023年11月16日～30日、調査対象は茨城県内企業453社で、有効回答企業数は197社（回答率43.5%）。なお、冬季賞与の動向に関する調査は2020年、2021年、2022年に続き4回目。

※帝国データバンク「企業が選ぶ今年（2023年）を表す漢字アンケート」（2023年11月28日発表）

調査結果（要旨）

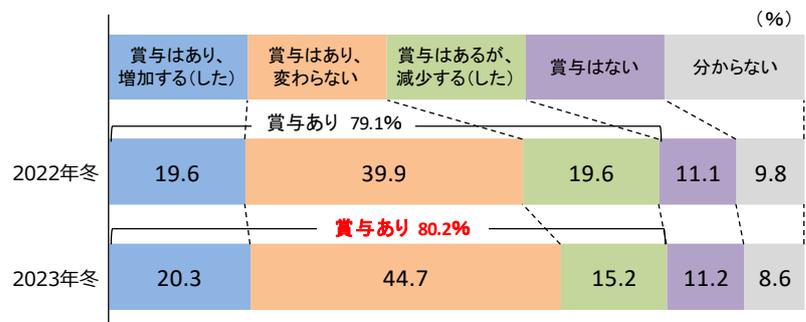
- 2023年の冬季賞与（ボーナス、一時金、寸志などを含む）の平均支給額について、「賞与はあり、増加する（した）」と回答した茨城県内の企業は20.3%となり、前年（19.6%）を上回った。一方、「賞与はあるが、減少する（した）」は15.2%（前年19.6%）、「賞与はあり、変わらない」が44.7%（同39.9%）、「賞与はない」が11.2%（同11.1%）だった
- 業種別にみると、『小売』（36.4%）で「賞与はあり、増加する（した）」と回答した企業の割合が最も大きかった。次いで、『製造』（34.6%）が3割台、『卸売』（20.6%）が2割台、『サービス』（16.1%）と『建設』（11.6%）が1割台で続いた。『運輸・倉庫』は0.0%だった。『小売』『製造』の増加は2年連続

1. 冬季賞与を増やす(増やした)県内企業は20.3%、前年を0.7ポイント上回る

冬季賞与の支給状況（1人当たり平均）

2023年の冬季賞与（ボーナス、一時金、寸志など含む）の従業員1人当たり平均支給額について、「賞与はあり、増加する(した)」茨城県内の企業は前年比0.7ポイント増の20.3%となった。コロナ禍からの経済活動の再開を背景に、冬季賞与を増やす(増やした)企業

は増加した。「増加する(した)」「変わらない」「減少する(した)」を合わせた「賞与あり」は80.2%となり、前年を1.1ポイント上回った。一方で、「賞与はない」とする県内企業は前年比ほぼ横ばいの11.2%だった。

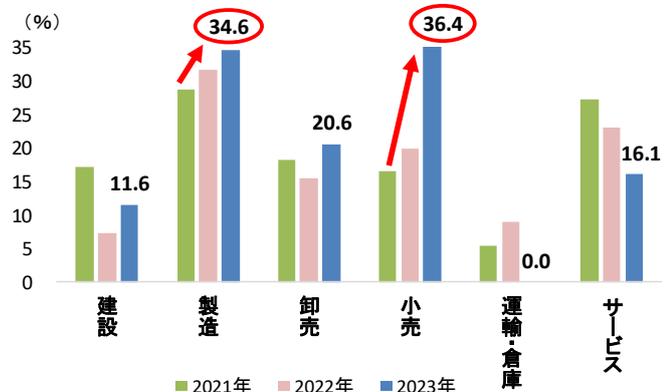


2. 『小売』『製造』は2年連続で冬季賞与を増やす(増やした)県内企業が増加

冬季賞与を増やす(増やした)企業の割合

2業界で冬季賞与を「増やす(増やした)」企業の割合が2年連続で増加した。外出や行楽需要の高まりや半導体不足の解消などが追い風となり、『小売』『製造』で上向き傾向となった。また、冬季賞与が2年連続で増加する企業は11.4%と昨年から4.0ポイント上昇した。

一方で、『サービス』『運輸・倉庫』は前年と比べ減少しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響による業績回復の遅れなどから支給額を増やすことができない様子が見えてくる。



まとめ

2023年冬は80.2%の県内企業で、ボーナスや一時金などを含め何らかの賞与を支給、もしくは支給を予定していることがわかった。その割合は前年と比べ1.1ポイント増、「賞与はあり、増加する(した)」だけでも20.3%と前年を0.7ポイント上回った。コロナ禍からの経済活動の正常化に伴い、賞与の額を増やす企業が増えている。物価高騰の煽りを受け実質賃金の減少が続くなかで、賞与の増大が消費拡大の起爆剤、さらには経済の好循環へつながることに期待したい。

【内容に関するお問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 水戸支店(情報担当:国分 信一郎)
TEL 029-221-3717 FAX 029-232-0272 MOBILE 080-7002-7189

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内で
ご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。